代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

発行　医療法人財団 東京勤労者医療会　１部60円
〒151―0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷１―30―７
ＴＥＬ03(3404)7661
E-mail address　yo_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

地域要求実現のため 強く大きな友の会を！

代々木健康友の会第44回定期総会

代々木健康友の会第44回総会が、10月31日（日）代々木の全理連ビルで開催され、２００人余が参加しました。「地域での共同を広げ、要求実現に全力をつくし新しい時代を展望した強い友の会づくりを！」の総会決議案を全会一致で採択して、新会長に石橋勝氏を選出しました。

仲間を爆発的に増やそう

開会挨拶で八田満穂会長は、毎年3万人を超える自殺者や不明高齢者問題などをとりあげ、くらしの異様さを変えるため友の会が頑張っていかなければならないと述べました。

代々木病院の井上均院長は来賓挨拶で、代々木病院は、リハビリテーション、二次救急医療、透析医療、在宅医療への支援を中心に地域医療に貢献してきており、渋谷区ではなくてはならない存在になっていると報告しました。

医療情勢にも言及し、都立広尾病院の民営化の動きを例に、医療は着実に崩壊の方向に進んでいる。医療や福祉、生活を守るために友の会の仲間を爆発的に増やそうと呼びかけました。

小池晃前参議院議員に、記念講演で社会保障について話していただきました。（詳細については友の会ページをご覧ください）

決意表明をする石橋勝新会長

仲間増やしを呼びかける井上均院長

運動で要求が実る

清見温子事務局長が総会方針案を報告。この一年間の活動の特徴として二つの取り組みを紹介しました。

一つは、本紙「くらしと健康」のコラムがきっかけで「千駄ヶ谷駅にエレベータ設置を」の署名運動に取り組み、ＪＲ東日本東京支社と交渉して「エレベータを年度内稼働させる」「誰でもトイレも設置する」という回答を得ることができ、大きな成果となったこと。

もう一つは、この夏の猛暑で被害が広がった熱中症から、地域住民と友の会会員を守る取り組みをして、地域の人たちから喜ばれたこと。とくに、高齢者の安否確認と見守りの活動は、今後の友の会の活動に生かしていく必要があると強調しました。

フロアーからの発言では、「千駄ヶ谷駅は、階段を駆け上がっていく若い方が多いので、高齢者は恐いおもいをしている。エレベータ設置の署名が実って良かった」「熱中症の注意を呼びかける見守り活動で、治療を中断されている患者さんや高齢の友の会会員さんを訪問した」「看護師や付き添いがいればいのちは助かったのでは」と看護師増員の必要を訴えた発言、「歯科一万人アンケート」の訴え、友の会や代々木病院への質問や要望など活発に討論が行われました。

真剣に聞き入る出席者

リハビリ課に活動功労者賞

注目の活動功労者賞には、班会などの講師活動に積極的に取り組んだ代々木病院のリハビリ課が選ばれ、木藤素子リハビリ課課長に八田会長から表彰状が授与されました。

役員の改選では、新役員40人が選出されました。12年間会長を勤めた八田満穂さんと、幹事の阿久澤信子さんが勇退され顧問に選ばれました。新役員を代表して石橋勝新会長が挨拶し、「強く大きな友の会をつくるために全力を尽くす」と力強い決意表明を行いました。

総会の閉めは、恒例の代々木病院合唱団バンブーによる歌声。参加者全員で「青い山脈」を合唱し、元気が出る総会となりました。

新役員の紹介

フロアーからの発言

手術台

「くちなしや鼻から下はすぐに顎」。落語の中の熊さんの珍句である。この伝でいくと今年は「あきなしや夏の次はすぐに冬」であった。確かに「暑さ寒さも彼岸まで」であった。だが、その暑さは尋常ではなかった▼それから1ヶ月も経たないうちに「西高東低」の冬型気圧配置。紅葉と同時に雪である。実りの「秋なし」は気候ばかりではない。核廃絶を訴えノーベル賞のオバマの支持率は急降下。実現する施策は選挙資金を出した業界順である。そして遂には核実験。何もチェンジしていない▼菅政権も同じく支持率急降下。マニフェストは店ざらし、出てきた後期高齢者医療制度は改悪である。不況脱却への好材料は何もなく、予算審議にはいるのに政権維持さえ危うい。この冬は永く、きびしいものになろう▼アメリカでは、支持した若者達が「任せただけではダメだ！　オバマを（約束どおり）動かす」運動を急速に立ち上げている。日本でも同じ。公約を果たさせる運動なしに本当の春は来ないだろう。（ま）